

## 令和4(2022)年「正覚寺報」10月号

## お知らせ

10月は、いよいよ報恩講の季節です。  
正覚寺では、10月29日(土)～30日(日)に報恩講をお勤めさせて戴きます。お客僧には久方ぶりに山本 泉茂布教使様をお迎え致します。皆様こそってお参り下さい。

## 記

10月2日(日)19時半 佛壮お聴聞の会

10月16日(日)19時半 佛婦例会

10月29～30日正覚寺報恩講

徳勝寺様の報恩講にもお参り下さいませ。

## ご本尊は、南無阿弥陀仏の名号本尊です

滋賀組仏婦研修会では、クイズ形式で、浄土真宗のおみのりの勉強会を営みました。浄土真宗のご本尊は、次のうちどれか、

釈迦牟尼仏、阿弥陀仏、観音菩薩。答えは ではなく正確には「南無阿弥陀仏」の名号本尊です。南無とは、帰命(帰せよの命)の二文字によって、大行、大信を如来様から衆生が賜ってお救いに与り、南無阿弥陀仏と称えれば、聞こえて下さる本願のお心からのお喚(よ)び声に喚び覚まされつつお浄土へと続く二河白道を歩ませて戴けるからです。それゆえ、浄土真宗のご本尊は、名号本尊として尊ばれているのです。

## 歎異抄(たんにしょう)の魅力

滋賀組門徒総代会・讃仰会研修会では、二年前に歎異抄漫画本を各寺院に配布し回し読みし感想文を提出して戴きました。

感想文で最も多かったのが第三章の「善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや、」でした。そこで、今回の研修会では、これまで

宗門の僧侶養成部で伝道院指導講師を担ってきて戴いていた三宮 享信正源寺ご住職に「歎異抄の魅力」と題してご出講戴いたのです。

世界で最もよく読まれている宗教書は何か、キリスト教では聖書ですが、仏教では圧倒的に「歎異抄」です。歎異抄は明治の初めに世に知られるようになって以来、世界のあらゆる言語に翻訳され、世界中の人々に知られるようになりました。フランス語翻訳をご覧になったフランス人が歎異抄に感動し「しんらん様」にお会いしたいと日本にやってくる。京都で西本願寺を尋ねて初めて「しんらん様」が七百年も前の方だったと知って驚いたと言われています。それ程歎異抄は、一般人の胸に迫る宗教的逆説に富んだ書物だったのです。

その第三章が「善人なほもって往生をとぐ、いはんや悪人をや、しかるを世のひとつねにいはく、「悪人なほ往生す、いかにいはんや善人をや」でした。常識的には、悪人でさえ往生できるとすれば、善人ならなおさらだというのが尤もでありましょう。けれども「善人・悪人」を対比するときには、「どちらが往生できるのか」で捉え、「悪人」とは、「他力」をタノム人、おまかせできる人と捉えるからです。第三章では「たのむ」という字が3回出て参ります。タノムとは「馮」の下に「心」と書き、如来様に「おまかせする」意、悪人はおまかせするより無かったからであります。合掌。

## 令和四年度報恩講のご案内

合掌、ご門徒の皆様には、二利双行の赴き、ご同慶に存じます。

さて、本年度の正覚寺報恩講を下記の通りの日程で勤修致します。

コロナ第七派は幸い落ち着きつつあり、お聴聞の好機であります。

今年は、久方ぶりに山本 泉茂布教使をお迎えし、幼い頃、日常生活の中で御法話テープをお聞きになったお母上の姿を通して三兄弟がお育てに与られ、長じて共に坊さんになられたという、生きた人生を通してみ教えを頂戴してこられた姿を学ばせて戴きます。

皆様こそってお参り下さいますようご案内申し上げます。合掌

北小松 宝石山 正覚寺

### 記

#### 令和四年度報恩講

十月二十九日(土曜日) 逮夜(午後二時より)、

初夜(午後七時半より)

十月三十日(日曜日) 満日中(午前十時より)

御客僧 山本 泉茂師(本願寺派布教使)

以上